

令和3年第1回「いわて復興ウォッチャー調査」結果について

資料3-2

【要旨】

復興推進プランの進行管理の一環として実施する「いわて復興ウォッチャー調査」(令和3年第1回)の結果を取りまとめましたのでお知らせします。

前回調査(調査時期:令和2年7月)との比較結果は、以下のとおりです。

- ・「被災者の生活」の「回復した」「やや回復した」の合計は84.3%と0.8ポイント増
 - ・「地域経済」の「回復した」「やや回復した」の合計は56.2%と0.7ポイント増
 - ・「災害に強い安全なまちづくり」の「達成した」「やや達成した」の合計は71.1%と1.0ポイント増
- なお本件につきましては、本日ホームページにおいても掲載予定です。

I 調査目的等

目的: 東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施するもの。

調査対象: 沿岸12市町村に居住または就労している方、153名(原則毎回同じ方を対象)

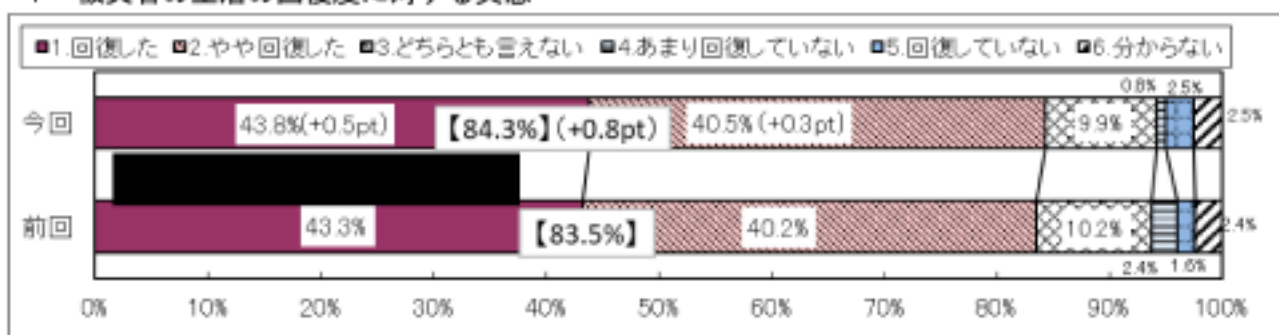
調査時期: 令和3年1月

調査方法: 郵送法(今回回収率79.7%(122名/153名))

<前回 83.7%(128名/153名 令和2年7月調査)>

II 調査結果の概要

1 被災者の生活の回復度に対する実感

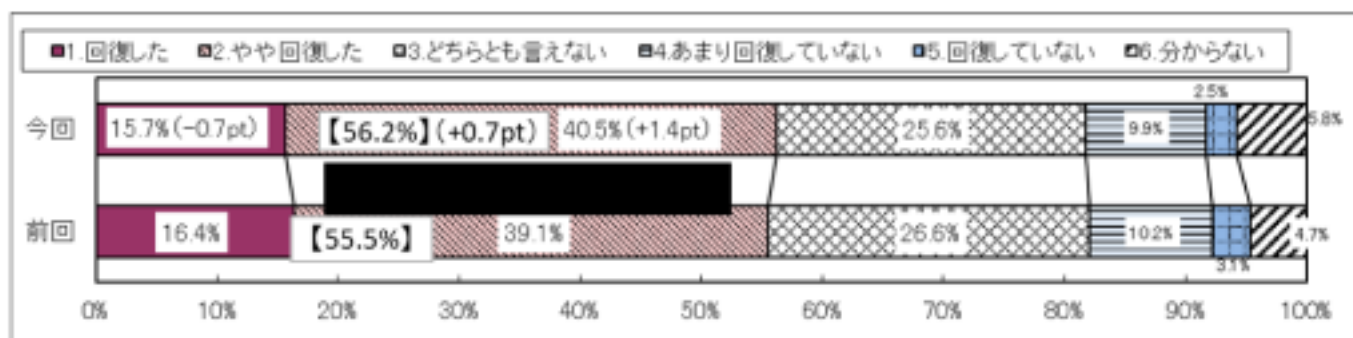


災害公営住宅への入居や自宅の再建による恒久的な住宅への移行など生活基盤の整備が進んでいるとの声がある一方で、コミュニティの形成や高齢者の生活面の支援が必要との声や、新型コロナウイルスの影響を懸念する声があった。

主なコメント

- 応急仮設住宅は、おおむね解体され、復興住宅入居や、自宅再建が進んでいる。
(回復した・進んでいる: 60歳以上, 地域団体・郵便局関連, 沿岸南部)
- 道路の整備が進み、利便性が向上している。復興住宅へ入居された方や、一人暮らしの高齢者の方への生きがいづくり、サポートに力を入れていただきたい。
(やや回復した・やや進んでいる: 40歳代, 地域団体・郵便局関連, 沿岸北部)
- 災害公営住宅の完成、高台への移転住宅建設等、間もなく震災から10年が経とうとしているが、回復していると感じる。今後はコミュニティのサポートに加え、高齢者中心に交通面のサポートも必要となってくるのではないかと。
(やや回復した・やや進んでいる: 50歳代, 産業・経済・雇用関連, 沿岸南部)
- 市のハード面は整備されているが、長い時間の中で、人口の流出や地域コミュニティの変化は否めない。さらに新型コロナウイルスの影響による経済活動の停滞で、今まで少しずつ積み重ねてきたソフト面(地域による活動も含め)が、非常に危うい状況になってきていると考える。
(どちらとも言えない: 50歳代, 教育・福祉施設関連, 沿岸南部)

2 地域経済の回復度に対する実感

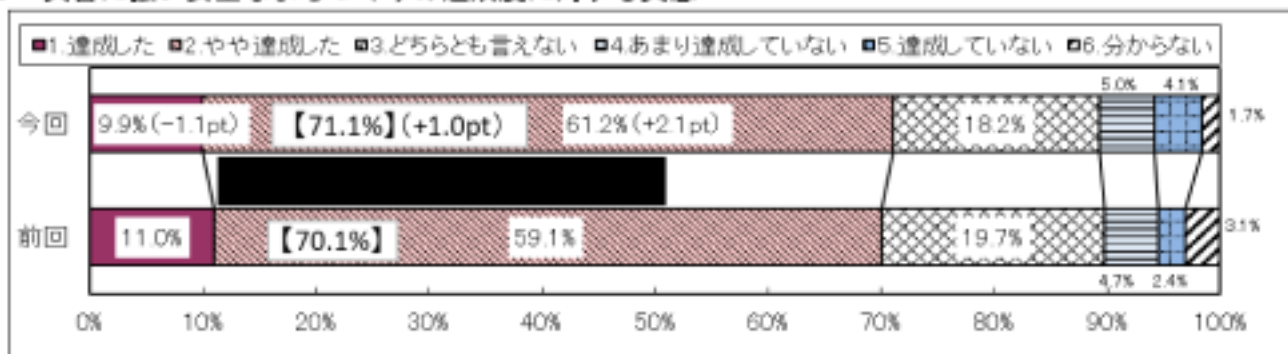


生産体制や基盤の整備、大型商業施設での堅調な営業状況などを評価する声がある一方で、水産業の不漁に加え、新型コロナウイルス感染症による観光業や飲食業など地域経済全体への影響に関する不安の声も多かった。

主なコメント

- 水産商工業施設の復旧復興工事が進み、復旧復興がなされているように思われる。
(やや回復した・やや進んだ：60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)
- 復興道路は整備され、回復を感じとれる。市街地での大型ショッピング店には人の出入りを感じる。
(やや回復した・やや進んだ：39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)
- 生産体制や基盤の整備、金融面での支援は達成レベルにある。
(やや回復した・やや進んだ：50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)
- サンマやサケの漁獲量が減っていて、漁業関係者の方は大変だと思う。また、コロナウイルスの影響で、飲食業や宿泊業も大打撃を受けている。地域を応援したくてもできない状況が残念でならない。
(どちらとも言えない：40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)
- 主要産業である水産業において、サンマの不漁をはじめ、多くの魚種の不漁が顕著である。また、コロナ禍の影響も加わり、販路が縮小している。
(あまり回復していない・あまり進んでいない：50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)

3 災害に強い安全なまちづくりの達成度に対する実感



防潮堤や復興道路などハード面の整備が進んだことを評価する声がある一方で、発災から10年の経過に伴う防災意識の低下への懸念や、避難訓練などのソフト対策や教訓の伝承の重要性を指摘する声が多かった。

主なコメント

- 防潮堤の整備は進んでいる。今後、ハザードマップや、万が一の避難場所がどこなのかを各自理解し、命を守る行動がとれるようにしていくことが必要と思う。
(やや達成した・やや進んでいる：40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)
- 大規模な防潮堤もその形が目に見えて確認できるようになり、災害に備えたまちづくりは着実に進行していると感じる。
(やや達成した・やや進んでいる：50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)
- 防潮堤や、道路の整備は大分進んだが、震災の風化により、災害への意識がうすらいているように感じる。又、震災を知らない(覚えていない)世代が高校生になっている中で、防災、震災の教訓を伝承していくことが、今後、ますます必要になってくると考える。
(どちらとも言えない：40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)

【担当】復興推進課

〔総括的事項〕総括課長 大坊（内線 6921）、〔記載内容等〕主幹兼推進協働担当課長 米内（内線 6946）

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数（D I）の推移

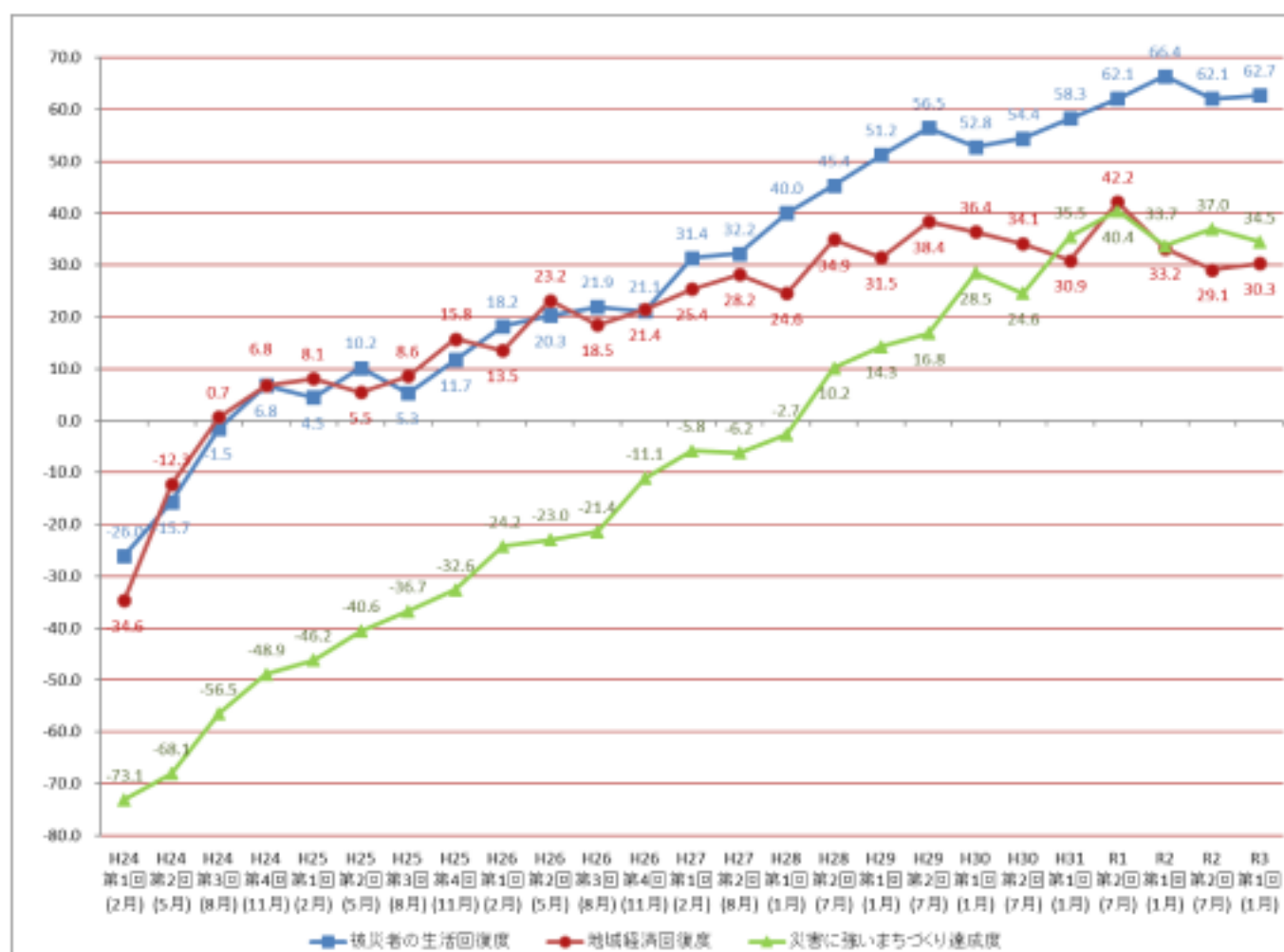
＜動向判断指数（D I）＞

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数（D I）について時系列にその推移を表わしたものである。

動向判断指数（D I）は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する

$$\text{動向判断指数（D I）} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

（注）上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる（他の選択肢についても同様）。



※ 平成27年第1回調査までは直近3ヶ月間、平成27年第2回調査以降は直近6ヶ月間（今回は、おおむね令和2年7月～令和3年1月）を指す。